

かずさの博物誌

ミサゴ

～勇壮な漁をするタカ～

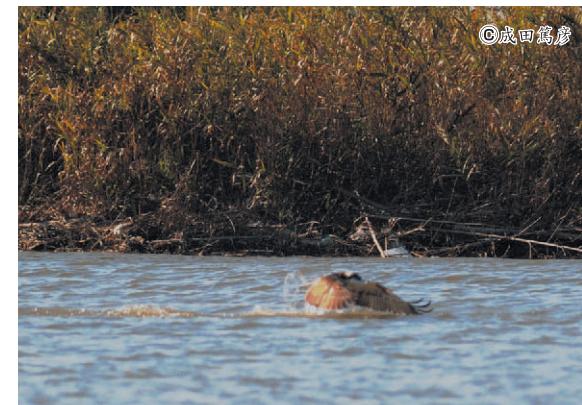
文・写真／成田篤彦

2014.7.20



▲魚をもって飛行するミサゴ

=2011年10月4日 上総地方
ミサゴは上総で秋～春に見られる。巣の近くに釣り人たちが来ると巣を放棄する。上総には人が近づかない安全な巣作りの場所がないから繁殖はないのかもしれない。彼らは世界的にも数の減少が心配されている種の一つだ。



▲魚を捕えて飛び上がろうとするミサゴ

=2010年11月3日 上総地方

梅雨があけると猛暑が続く。過ごしやすい秋が早く、来ないかと思う。秋がくれば上総の海岸や河口にはミサゴが北国からやってくる。ミサゴは魚を捕るタカだ。彼らが秋空の下で上総の河口で漁をする姿は勇壮でダイナミックだ。大きなえものを捕えて、ゆつたりと飛行する姿は見えがある。知られない上総の風物詩の一つだと思う。

さて、三年前の秋、河口の岸辺で海の景色を楽しんでいると徐々に潮が満ちてきた。すると沖合から大きな力モメに似た、白っぽい鳥がゆっくりと頭上を上流へ飛んでいった。ミサゴだ。河口の松林を越え、ヨシが繁茂する中洲近くの川面を黄色の眼でなめるように見つめながら、ゆつたりと往復していた。

そのうち、ヘリコプターのように一点に留まり、つばさを縮め、頭から急降下していく。太い脚とその指を大きく広げ水面につきだし、水中に飛び込んだ。水しぶきが上がり急降下していく。太い脚とその指を大きく広げ水面につきだし、水中から飛び込んだ。羽ばたいて、水中から飛び上がった。羽ばたいて、水中から飛び上がった。ミサゴが頭上を通過した時、大きななぎらぎらとした真丸な眼と魚をつかんだ長く鋭い爪が魚の体を突き通しているのが見えた。この爪が三十センチを越えるボラやコノシロなどをつかんでいたこともある。みんなに大きな魚を捕えて、よく水中から飛び上がるものだと感心する。

その後、彼らは沖合にまっすぐに飛べるのだと思った。また、体長戻っていました。きっとカラスやトビやダイサギやアオサギからせつかく捕つた魚を奪われないように安全な沖の杭に止まって、えものを食べるのだろう。

ミサゴは、数は少ないが、毎年訪れている。これが、いつまでも続いてほしい。同時に、ミサゴが子育てができる落ち着いた自然環境に改善されるのを願っている。



▲海の杭で魚を食べるミサゴ=2009年12月15日 上総地方

memo

ミサゴ

タカ目ミサゴ科

千葉県指定重要保護生物。トビよりも一回り小さい。極地や砂漠を除く北半球全域。オーストラリアの沿岸部で繁殖する。国内では北海道・本州・四国・九州などで繁殖する。北日本で繁殖するものは南に渡り越冬する。県内での繁殖は未確認である。東京湾では旅鳥または冬鳥である。魚を脚で捕える。

参考文献

二〇一年 千葉県

千葉県の保護上重要な野生生物

©成田篤彦



▲河面に急降下するミサゴ=2010年11月3日 上総地方